

大麦の栽培基準

(品種 ファイバースノウ)

月	9月		10月		11月			12月			12月			2月		3月			4月			5月			6月	
旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下	旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬

生育のイメージ

苗立ちの安定化 茎数の確保 越冬前の生育確保

大麦350kgどり (収穫構成要素)

○m²当り穂数: 450本
(苗立ち数150本×1穂穂数3本)

○1穂収量 0.92g

品質目標

○容積重: 690g/ℓ以上

○細麦率: 2.2mm(篩)下に2.0%以下

○白度: 43以上

○硝子率: 40%以下

〈排水対策〉

- ・稲刈り後、早急に額縁排水溝と基幹排水溝を設置する。
- ・浸透性の悪い圃場はサブソイラによる心土破碎を行う。

〈栽培のポイント〉

- ・排水対策で初期生育量を確保する。
- ・土づくりの実践的的確な
- ・計画的な播種。
- ・生育に応じた追肥。
- ・赤かび病等の適期防除。
- ・適正な収穫と乾燥調製。

幼穂形成期 最高莖数期 止葉展開期 (出穂12日前) 出穂開花期 成熟期

幼穂形成期 2月下旬頃 穂揃期 4月下旬頃 成熟期 6月上旬頃

穂数確保 登熟向上

← 結実日数 →
平年43日(積算温度 平年748℃)

〈赤かび病防除〉

- ・農産物検査規格における混入限度は0.0%

⑨防除 (10a当り)

回数	時期	薬剤名	施用量
1回目	穂揃期	トップジンM水和剤	1000倍150ℓ
		トップジンM粉剤DL	4kg
2回目	7日後	シルバキュアフロアブル	2000倍150ℓ
		ワークアップ粉剤DL	3kg

〈子実水分は〉

40%までは1日当り
1.6%程度低下し、
40%以下では1日当り
3.6%程度の減少。

主な作業

- 排水対策
- 土づくり
- 種子消毒
- 耕起・碎土 施肥
- 播種
- 播種後除草剤
- 年内追肥 (分施)
- 排水溝の手直し (降雪前の排水・生育期間中随時実施)
- 消雪後の追肥 (分施)
- 赤かび病1回目防除 (穂揃期)
- 赤かび病2回目防除 (7日後)
- 収穫・乾燥・調製

⑤播種量 (10a当り)

時期	ドリル播き	表面散播
9月下旬	6.0kg	6.5kg
10月上旬	6.5kg	7.0kg
10月下旬	8.5kg	9.0kg

(播種深度3cm程度)

⑥播種後除草剤 (10a当り)

薬剤名	使用時期	使用量
リベレーターフロアブル	雑草発生前～	薬60～80ml +水100ℓ
リベレーターG	イネ科雑草1葉期まで	4～5 kg

雑草茎葉散布、全面土壌散布

②土づくり

吉土石灰 100～200kg/10a

有機物質材 堆肥 1～2t/10a 鶏糞 100～200kg/10a

④基肥 (分施) 40kg/10a

④基肥一発肥料 LP大麦48号 40～45kg/10a

⑦年内追肥 (分施) 20kg/10a

※必ず施用

12月上旬生育量が不足している場合 流安 10kg以内/10a

⑦消雪後追肥 (分施) 15～20kg/10a

※生育量に応じて

⑦止葉展開期追肥 (分施) 10kg以内/10a

生育を見ながら必要に応じて

軟幅3m以内

※排水の悪い圃場は軟幅を狭くする。 ※溝は必ず深く掘り下げた排水溝に連結する。

※子実水分30%以下を目安に刈取り開始。

- ・毎時乾減率1.0%以内、乾燥水分は13%未満に仕上げましょう
- ・カラスノエンドウ等の雑草種子や異物混入防止。
- ・生麦は、4時間以上堆積しない。

大麦の乾燥・調製は是非農協の施設をご利用ください。